**令和４年度多摩市立諏訪小学校学校経営方針**

　多摩丘陵に位置する本校は、かつて中諏訪小学校と南諏訪小が校との統廃合によって新設された、とあります。これは、当時児相数の減少等に悩む両校が、子供たちにとってよりよい環境を整えるための「発展的統合」であった、とされました。開校時、全学年が２クラスで児童数が４１７名でした。当時から２９年経ち、現在は１４学級と特別支援学級とがあり、児童数は４５３名（４月６日現在）です。

　今まで歩んできた歴史を踏まえながら、新しい教育課題に応えるために、確実に学校経営を進めていきたいと思います。

**１　「コミュニティ・スクール」の導入－家庭と地域との更なる密接な連携を目指して**

　多摩市教育委員会は「保護者や地域の方々が、学校と一緒に連携・協働しながら子供たちの学びと成長を支えるための「コミュニティ・スクール」を市内全体に段階的に導入する」とし、本校も本年度よりコミュニティ・スクールとなります。

　本校では、今までも家庭・地域との連携を図るべく学校経営を行っており、昨年度もこのことを学校経営計画に位置付けています。すでに御紹介をしておりますが、平成２９年度４月に、当時の中井敬三　東京都教育長は、理想の学校像を

**・保護者が「子供たちを通わせてよかった」と思う**

**・地域住民が「愛している」と感じる**

**・教職員が勤務をしていて「やりがい」を感じる**

と私共に述べました。

　このことを踏まえながら、本校では教育活動のさらなる充実を図るために、保護者並びに御家族の皆様と地域の方々の御協力を得るとともに、本校も様々な形で地域社会に貢献できるようにしていくための努力をしていきたいと考えています。そして、何よりも、**子供たちが「諏訪小学校に通って楽しい」と感じられる**学校を目指していきます。

**２　教育目標**

　すでに広く言われておりますが、学校は子供たちに「生きる力」を育むために教育活動を行っていく場である、とされます。具体的には、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を子供たちにバランスよく身に付けさせる、ということです。この三つの要素は、本校が開校以来掲げる教育目標と合致します。

**「かしこく」**－広く学び、考えよう**（確かな学力）**

**「やさしく」**－共に感じ合い、認め合おう**（豊かな人間性）**

**「たくましく」**－体をきたえ、元気に過ごそう**（健康・体力）**

私共は改めてこのことを確認し、本年度の教育活動を行ってまいります。

**３　教育目標の具体化**

　本校の教育目標には、「かしこく」「やさしく」「たくましく」を総括する表現があります。

**「人や自然を愛し、知恵や勇気、強い体を養い、豊かに生きる力をもつ児童を育成する」**

　このことは、また多摩市が掲げるESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）、つまり「これからの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現する」教育と相通じることがあります。これは、SDGｓに繋がる考え方でもあります。

　私共は、これを踏まえて教育活動を行っていくこととします。

**（１）「かしこく」（確かな学力）（重点目標）**

**①目指す子供たちの姿**

　基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるとともに、これを活用しながら、自ら課題を見いだしてこれを解決し、自ら判断したり行動したりしようとする。

**②具体的な手立て**

　全ての学習活動において「問題解決過程」（問題をつかむ→解決する→まとめる→さらに追求したり生活に生かしたりする）を念頭に置き、子供たちが主体的に問題を解決する力を育成できるようにする。そのために、例えば、

1)算数科（例：習熟度別学習－個に応じた学習活動等の設定）

2)国語科（例：文学的な文章（物語文）の読解－子供たちに活動を委ねながら読み深めさせる活動の重視）

3)社会科・理科（例：問題に対する予想の明確化→予想を確かめるための調べる活動や観察・

実験の重視）

4)生活科・総合的な学習の時間（例：「１学年１実践」（主体的に課題を設定し、よりよい社会を創っていこうとする）ための学習）

**③学習を成立させるための視点**

1)対話的な学び（友達と関わりながら学習活動を展開させること）

2)深い学び（対話的な学びを通し、自分のまとめや考え方などを広げたり深めたりすること）

**（２）「やさしく」（豊かな人間性）**

**①目指す児童像**

自分のことを律しつつ粘り強く最後まで取り組もうとしたり、仲間と協調したりすること

を通して自他を認めようとする。

**②具体的な手立て**

1)特別の教科　道徳の充実（考え、議論する学習を目指して）

2)通常の学級と特別支援学級との交流学習・共同学習の推進

3)たてわり班活動における多様な関わり－各学年の役割等の明確化

4)「すわっ子市場」（第６学年、農園や花壇での栽培活動→販売へ）

　その他野菜を中心とした栽培活動（全学年）

5)「卒業プロジェクト」（第６学年）

**（３）「たくましく」（健康・体力）**

**①目指す子供たちの姿**

健康でかつ安全に生活するための知識や技能を身に付けるとともに、これらを生かしなが

ら安心して生活しようとする態度を養う。

**②具体的な手立て**

1)「体力アップ週間」（縄跳び（短縄、長縄）、持久走など）

2)パラディスボール・ボッチャ等の体験学習(東京2020オリンピック・パラリンピックのレ

ガシーとして)

3)体育学習の充実（含　教員の指導力の向上）

4)保健指導の充実（「自身の健康」を見つめるために）

**５　基本的な考え方－教育活動を支える本校の教育のあり方**

**（１）始めに**

一昨年度来まん延している新型コロナウイルスの影響は大きく、昨年度は、臨時休校、

学級閉鎖、学校閉鎖と厳しい対策を行わざるを得ない場合があり、皆様には御迷惑をおかけいたしました。また、活動によっては中止、あるいは縮小等の手立てを講じなければならない場合もありました。一方で、例年通り、とはいきませんでしたが、例えば１１月に行った運動会のように、工夫によって多くを叶えられる活動もありました。

本年度も、「できることはやる」と「できないことはできない」を念頭に置き、感染症

対策を十分に行いながら教育活動を推進していくことといたします。皆様には時に厳しいと思われるお願いをすることもあるかとは存じますが、深くお願いをする次第です。

**（２）特別支援教育の充実－一人一人の教育的ニーズに応えるために**

　先程、「対話的な学び」でも申し上げましたが、学校の特性の一つとして、子供たちが関わりながら教育活動を行うことを挙げました。一方で、例えば集団において友達に関わることや、学習活動を円滑に行うことが難しい場合もあります。昨今では、「個別最適な学び」などと申しますが、私共は、子供たち一人一人がもつよさを大切にし、また生かすためにも、個に寄り添っていくことを理想としながら、一人一人の教育的にニーズに応えるために、具体的な手立てを講じてきたい、と考えています。

　本校には特別支援学級　なかよし学級が設置され、学習環境や指導形態等を工夫して一人一人に応じた教育を行っています。子供たちの状況等を踏まえながら、通常の学級との交流活動を強く推進して集団への所属意識の向上を図ったり、通常の学級の諸活動に参加する場を設定したりしています。これらのことは、本校全ての子供たちが互いのよさを認め、尊重し、生き生きと活動することにつながっています。

　また、本校には特別支援教室「つばさ」も設置されています。通常の学級に在籍をしながら、一人一人の教育的ニーズに応じて個別指導や小集団指導などを行い、在籍学級での生活や学習活動等が一層円滑に行えることを目指しています。

　改めまして、一人一人の教育的ニーズに応えるための特別支援教育に御理解をいただきますとともに、私共はこの観点からも保護者の方々に御相談をすることもあるかと思いますが、どうぞお含み置きください。併せて、お悩み等がございましたら、ぜひ担当教員にまでお問い合わせください。

**（３）「いじめは絶対に許さない」「不登校への対応」**

　平成２５年に制定された「いじめ防止対策推進法」により、法律の面からもいじめは許されないこととなりました。いじめに対する関心は一層高まったとも言えます。しかし、それでもいじめはなくならず、その対応の難しさも指摘されています。私共は、改めて「いじめは絶対に許されない」という考え方で子供たちに指導をしてまいります。一方で、「いじめは起こりうる」と認識し、平素より子供たちに指導をしながら「未然防止」を心掛け、複数の教員で観察等を行いながら「早期発見」すべく緊張感をもち、万が一起こった場合には「早期対応」をしてまいります。

　不登校についても適切に対応できるように努力をしてまいります。何よりも、学校・学年・学級が子供たち一人一人にとって居心地のよい環境になるように工夫をしてまいります。また、子供たちが登校を渋るなどの事態に至った場合には、状況を的確に把握し、また個に応じた対応を行ってまいります。併せて、スクールカウンセラーを始めとする多くの教職員と連携を図りながら対応をしていきます。

**（４）ICT教育の推進**

　臨時休校、学年閉鎖、学級閉鎖の際にはタブレット端末を活用しての課題提示を行ったり、子供たちが課題の提出を行ったりしました。また、２月には、土曜日授業時に学級指導をオンラインで行い、家庭での活用について試験的に行うことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

　今後は、さらに環境を始めとする諸条件を整えながら広く活用できるように取り組んでまいります。年度当初に計画が明確になっておらずに恐縮ですが、皆様の御協力を得ながら進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**（５）環境整備－校内の改修等**

　すでにお伝えをしておりますが、本年度はトイレの一部様式化を図るべく６月末より９月末までに改修工事がございます。この件につきましては、以前より保護者の方々の強い御要望があり、時間はかかりましたが、このことによって本校の教育環境が整備された、と理解をしております。感謝を申し上げます。工事に伴いまして、この間子供たちには一部不便をかけますが、様々な工夫をしながらできる限りの対応をしてまいります。また、子供たちの教育活動と工事とが重ならない方がよい、との判断で、夏休みを普段より長く、またこれに伴って土曜日授業が例年より多くなっておりますが、御理解と御協力を賜りたく存じます。

　その他、保護者の方々への情報提供の方策等については、御意見を頂戴しているにも関わらずすぐに対応できずに申し訳ございません。今後工夫をしていきたいと思います。

**（６）最後に－「試行錯誤」、「ゆっくり急げ」（Festina Lente）**

　最後に口幅ったいことを申し上げます。

　昨今、多くの職場で「働き方改革」が叫ばれ、学校もその例外ではありません。教職員の健康保持増進を始め、様々な管理をする立場からすれば、これに真摯に取り組むことが求められていることは偽らざるところです。そのためのキーワードの一つとして「効率化」が挙げられるとも理解しています。

　しかし、一方で、こと子供たちの教育活動を見てみますと、必ずしも合致しないことがあります。例えば、子供たちには活動した成果としての知識や技能、考える力などがすぐに身に付くとは限りません。間違えては直し、また何度も挑戦してやっとの思いでできるようになることも多々あります。これはきっと「試行錯誤」ということにもなるでしょう。

　また、「ゆっくり急げ」（Festina　Lente、ラテン語）という言葉もあるそうです。例えば、火災現場で消防士はできるだけ早く消火を完了させなければなりませんが、一方で、どのように活動すれば消火がしやすいか、を冷静に、そう、それこそ「ゆっくりと」見定めることも大切である、とされます。

　かつては、牧歌的、などとも言われ、のんびりとした雰囲気の中で教育を行う大切さも言われておりました。

　幸い、本校は敷地も広く、他校ではなかなか見られない「冒険の丘」や栽培園もあります。このような利点を生かしながら、柔軟に対応をしていく大切さを感じています。皆様はどうお考えでしょうか。

　この１年、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和４年４月

校長　齋藤幸之介